



ふるさと笠松の「ちょっといい話」 No.115



「第38回 少年の主張大会」が開かれました。 小学生6人と中学生6人が「思い」を熱く語りました。

平成28年6月26日(日)に笠松中央公民館の大ホールにおいて、笠松町青少年育成町民会議の主催で、少年の主張大会が開催されました。出場者のご家族を始め、学校の関係者、知り合いの方々などの大勢の聴衆の前で、12人の子は精一杯発表してくれました。以下にそれぞれの子の主張のほんの一部を掲載いたします。どんな主張だったのかを知っていただく一助になれば幸いです。



笠松小学校 多賀谷 妃女さん
「夢に向かって私がすべきこと」

私は看護師になりたい。その夢を持つようになったのは①小さい子とふれあうのが好き②看護師のお母さんがすごい③たおれた祖母に対応した姉さんの姿にあこがれたからだ。自分を鍛えたい。



笠松小学校 浅野 統和 さん
「挑戦する気持ち」

大名行列に参加し、傘を投げる事ができてうれしかった。Eポート大会、ファミリーマラソンやアルミ缶やキャップ集めなどボランティアを続けたい。挑戦する気持ちを大切にしていきたい。



松枝小学校 鷲見 和真さん
「僕が玉子焼きを作り続ける理由」

栄養のあるものを作り続けたい。卵を4個使って家族のために玉子焼きを作っている。卵の特性や卵の在庫管理ができるようになった。これからも忙しいお母さんの手助けを続けていきたい。



松枝小学校 東 栞那さん
「私のしょう来の夢」

入院することになった。その時看護師の仕事にあこがれた。看護師さんが会いに来てくれただけでうれしくなった。なぜか？看護師さんが笑顔だったから。私も看護師になったら笑顔をふるまう。



下羽栗小学校 小木曾 優菜さん
「今 私ができること」

大好きなおじいちゃんが亡くなった。1年生の私は何もできなかった。今、料理や洗濯などができるようになり母に喜ばれる。人の役に立つ仕事に就きたい。周りの人が笑顔になる仕事をしたい。



下羽栗小学校 後藤 菜友さん
「外国の人とのふれあいの中で」

ネパールから女の子が来た。英語を喋れたらと思った。アメリカから2人の女の子が来た。箸の使い方を教えてあげた。外国へ行ってその国のことをよく知りたい。いろんなことを学びたい。



6人とも物怖じすることなく、堂々と自分の思いを主張できていました。素晴らしかったです。これからも今まで以上に自信を持って生きてください。よい主張を聞かせてくれてありがとうございます。

「第38回 少年の主張大会」中学生の部

中学生6人が「熱い思い」を力強く語りました。



笠松中学校 加藤 莉沙さん
「関わることで・・・」

リーダーという仕事をやってきた。呼び掛けても応えてくれない仲間にはだちを覚えた。しかし、信頼されていることを知り、呼び掛けができるようになった。大切なのは人との関わりだ。



笠松中学校 三品 美咲さん
「つながり」

転校生になり、1年経って本当の友達ができ、自分1番の性格が治った。人には得意なことでも得意でないこともある。認め合っていくことが大切。夢物語で終わらせたくはない。



笠松中学校 河合 健留さん
「大切なもの」

ゴミの増加問題は全国的な問題へと変化している。ゴミで人の幸せが壊されている。今、大切なことは一人ひとりできることをやること。小さな力でも継続すれば大きな力になる。物を大切にしたい。



笠松中学校 後藤 真優さん
「広がるあいさつ」

おばあさんにあいさつをしたが返ってこない。1週間あいさつを続けたらあいさつが返ってきた。あいさつで1日が気持ちよくスタートする。まず、中学生があいさつをする。楽しさを知って欲しい。



笠松中学校 三品 仁美さん
最優秀「今の私が創られた場所」

私は転校した馬瀬村で多くのことを学び、成長をした。自然のありがたさや怖さを学んだ。社会においては対人関係を大切にすることに気付かせてくれた。その場所を大切にしたい。



笠松中学校 石原 悠翔さん
最優秀「名前も知らない家族」

心にも回数にもこだわってボランティア活動をしている。町内一斉清掃には650人の中学生が参加した。あいさつ運動でも活躍し、中学生は名も知らない家族として地域で大切にされている。



素晴らしい発表をありがとうございました。力を